

2011.5.20

『アメリカン・ディアスポラ』シリーズ第一回

アメリカ大陸のディアスポラ

—越境者の受け入れ社会と送り出し社会からの視点—

報告者 松久玲子（グローバル・スタディーズ研究科）

「アメリカン・ディアスポラ」では、「アメリカ」をアメリカ合衆国だけではなく、ラテンアメリカを含む南北アメリカ地域、つまりアメリカ大陸としてとらえ、この地域における人の移動とその社会的影響について考えたい。現在、「ディアスポラ」という用語の示す範囲は拡大し、近年ではグローバル化にともないさらに広範に使用されている。特に、ラテンアメリカのいくつかの政府は、転地先と出身地ないし出身共同体との両者に二重に帰属している在外国民に対しこの用語を使用している。こうした前提のもとに、第一回は、アメリカ大陸内の域内人口移動とラテンアメリカ社会から見た国際人口移動の意味をメキシコを中心に考える。

1. アメリカ大陸における国際人口移動の特徴

南北アメリカ大陸は、移民を受け入れることによって形成された移民社会としてイメージされてきた。16世紀以降、アメリカ大陸は、ヨーロッパ、アフリカ、アジアから人々を受け入れ続けてきたが、20世紀から21世紀にかけて、ラテンアメリカは受け入れ側から急速に移民創出国となって行った。一方、北米は、移民受け入れ国であり続けた。

近年、アメリカ合衆国の最大のマイノリティ集団はヒスパニックであり、2010年の国勢調査においても、全人口の16.3%を占め、過去10年間の人口増加率はアジア系人口について高い43%、マイノリティの中で人口に占める割合はもっとも多くなると予想されている。ラテンアメリカ地域の人口移動の特徴は、メキシコ・中米では、アメリカ合衆国への移民が大部分である。南米では、移民先がアメリカ合衆国だけではなく、ヨーロッパを含めた環太平洋地域全体に拡散し、アメリカン・ヘゲモニーとヨーロッパ・ヘゲモニーが拮抗している。また、アジア系移民を受け入れて来た歴史から、アジア地域でのディアスポラを生んでいる。

アメリカ合衆国のラテン系移民は、5000万人と言われている。出身地別の割合は、メキシコ系64%、プエルトリコ系9%、キューバ系3.4%となっている。この背景には、アメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国の歴史的背景が存在する。国境の移動、政治体制の変化、内戦、経済的理由などディアスポラを生み出す要因が存在した。また、アメリカ合衆国は、労働力の確保や政治的理由からの中米紛争時の難民受け入れのため、ラテンアメリカの人々を政策的に受け入れてきた。

2. メキシカン・ディアスポラ

メキシコはアメリカ合衆国と国境を接し、歴史的にもアメリカ合衆国と深い関係にある。第二次世界大戦以降、在米メキシコ人は労働ディアスポラの性格が強い。メキシコ政府は合衆国内のメキシコ移民に関して「メキシカン・ディアスポラ」と呼んでその送金による経済的効果に着目し、文化的アプローチが主流であるディアスポラ研究に社会資本の視点を導入した。メキシコは、移民については送り出し国、受け入れ国そして中継国としての側面を持っている。

メキシコ北部の国境地帯では、メキシコはアメリカ合衆国への労働者の最大の送り出し国である。正規移民でも、2500万人、メキシコ国民の5人に一人が国境を超えている。移民の動機は、貧困よりも不平等に起因し、よりよい収入を求めて移動する。特に、アメリカ合衆国の移民政策により、移民形態は変化するが移民数自体に変化はなく、非正規移民として流入していく。そのしわ寄せは、女性、先住民、子供などの社会的弱者に覆いかぶさり、非合法的越境を商売にするコヨーテによる搾取や暴力、過酷な越境による犠牲の対象となっている。さらに、移民にはアメリカ合衆国においても劣悪な労働条件が待っている。出身地社会への影響も大きい。長期的には、人的資本の流出、開発の停滞、居残り家族のストレスの増大が報告されている。一方で、合衆国にすむメキシコ人の送金は、無視できない額に上り、消費の増加、健康問題の解決、教育への投資、出身地の共同体の開発投資に使われている。2006年の送金額は、石油輸出収入額の59%に上り、235億ドルに達している。この財源に目を付けた政府は、社会開発省が管轄する《移民のための3x1プログラム》を策定し、海外に居住する移民が出身地の開発や生活の質を上げるために社会活動を移民組織やクラブを通じて行っている。

メキシコ南部国境地帯では、主に中米からの移民を受け入れている。同時にアメリカ合衆国への移民の中継地となっている。中米移民のうち、最も大きな割合を占めるのがグアテマラ移民である。1980年代には中米紛争による難民が増加した。一方、毎年45,000人から75,000人の農業労働者がコーヒー、サトウキビ、バナナ栽培の季節労働者として南部国境を越える。また、中米からアメリカ合衆国とカナダに入る中継移民も存在する。南部国境における非正規滞在者を生み出す要因として、中米における貧困と不平等の持続、さまざまな自然災害や、アメリカ合衆国の1980~90年代の難民政策でアメリカ合衆国に中米出身者により形成されたネットワークがあげられる。非正規の中継的移民は、グアテマラから合衆国への移動の途中で人身売買、強盗、犯罪者の手にかかって殺害などの危機にさらされている。ここでも、女性と子どもは最も危機にさらされている。2003-5年、メキシコはグアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラスとの間に安全に送還するための協定を結ぶが、2005年には、24万人の中米人が国境で逮捕されている。

二国間の協定だけではなく、人権保護の立場からのグローバルな移民政策が必要であり、持続的開発の観点から、受け入れ、送り出し社会双方の問題を長期的に見ていく必要がある。